

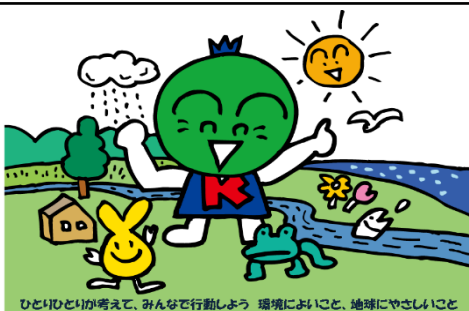
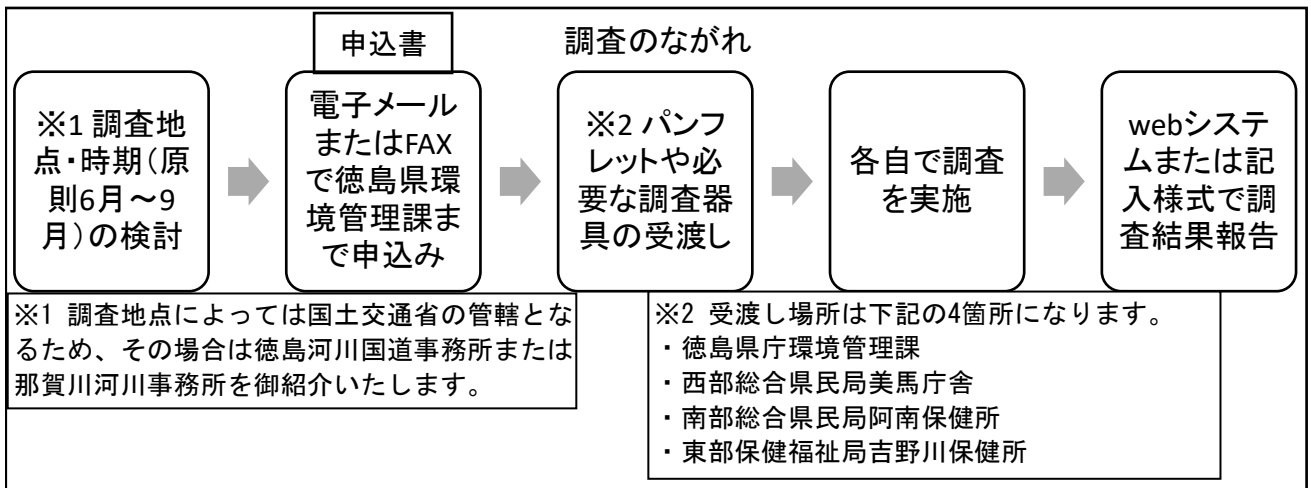
全国水生生物調査に参加してみませんか！？



川底に住んでいる生きものは、過去からの長い時間の水質の状況を反映しています。全国水生生物調査では、水の中にすむ29種類の指標生物の中から、どの指標生物が多く見られたかを調べることで、水のおよぐれの程度を判定します。



水質階級	川の水のおよぐれ	指標生物	
水質階級Ⅰ	きれいな水	10種類	アミカ類、ナミウズムシ、カワゲラ類、サワガニ、ナガレトビケラ類、ヒラタカゲロウ類、ブユ類、ヘビトンボ、ヤマトビケラ類、ヨコエビ類
水質階級Ⅱ	ややきれいな水	8種類	イシマキガイ、オオシマトビケラ、カワニナ類、ゲンジボタル、コオニヤンマ、コガタシマトビケラ類、ヒラタドROMシ類、ヤマトシジミ
水質階級Ⅲ	きたない水	6種類	イソコツブムシ類、タニシ類、ニホンドロソコエビ、シマイシビル、ミズカマキリ、ミズムシ
水質階級Ⅳ	とてもきたない水	5種類	アメリカザリガニ、エラミミズ、サカマキガイ、ユスリカ類、チョウバエ類



【お問合せ・申込み先】

徳島県 生活環境部 環境管理課 水質担当

電話 088-621-2272

ファクシミリ 088-621-2847

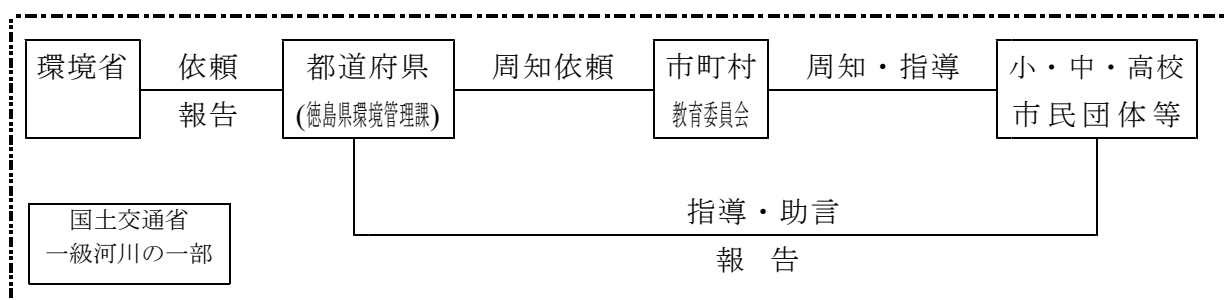
電子メール kankyokanrika@pref.tokushima.lg.jp

水生生物調査の概要

1 調査趣旨

河川に生息するサワガニ、カワゲラ類等の水生生物の生息状況は、水質汚濁の影響を反映することから、それらの水生生物を指標として水質を判定することができます。このような調査は、一般の人にもわかりやすく、高価な機材等を要しないことから誰でも簡単に参加できるという利点があります。加えて、調査を通じて身近な自然に接することにより、環境問題への関心を高める良い機会となるため、環境省では（国土交通省と共催）、昭和59年度から全国水生生物調査を実施しています。

2 調査体制図



3 調査河川

県における水生生物調査は、一級河川の国土交通大臣直轄区間以外の河川が対象となります。

徳島県 一級河川の国土交通大臣直轄区間以外 ・右記以外の河川	国土交通省四国地方整備局 一級河川の国土交通大臣直轄区間 ・吉野川（下流から祖谷口橋まで） ・今切川 ・旧吉野川 ・那賀川（下流から十八女大橋まで）、 ・派川那賀川 ・桑野川（下流から長生橋まで）
--------------------------------------	---

4 調査方法

各団体で、環境省作成パンフレット「水生生物による水質調査法」を参考に調査を行ってください。パンフレットは、後日、参加希望団体に配布いたしますが、環境省の全国水生生物調査ホームページにも調査の流れが掲載されています。

<https://water-pub.env.go.jp/water-pub/mizu-site/mizu/suisei/>

5 調査期間

6月から9月まで（原則）

調査のための道具、テキスト等は県から配布します。

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
参加者募集	→						
調査器具配布		→					
各団体による調査・結果報告		→					
県から環境省へ報告						→	
環境省により全国集計							→ 1月ぐらいまで

6 調査結果報告

調査の結果は、用紙に御記入いただき県担当者へ報告していただくか、web上で環境省のホームページに直接御入力いただくことにより報告していただきます。

7 過去の調査結果

環境省ホームページから過去の水生生物調査結果を閲覧できます（調査地点、指標生物生息、水質階級判定）。過去の調査結果を見て、経年変化や他地点の状況等を参考に活用してください。

<https://water-pub.env.go.jp/water-pub/mizu-site/suisei/pub/eturan/select.html>

8 連絡窓口

〒770-8570 徳島県徳島市万代町1丁目1番地

徳島県 生活環境部 環境管理課 水質担当

電話：088-621-2272

ファクシミリ：088-621-2847

電子メール：kankyokanrika@pref.tokushima.lg.jp

※調査地点によっては国土交通省の管轄となるため、その場合は徳島河川国道事務所または那賀川河川事務所の窓口を御紹介いたします。

水生生物調査の方法について

(詳細は調査テキストを御覧下さい)

この調査法は河川に棲む「肉眼で見ることのできる大きさ」の様々な生物（指標生物）を調べ、その結果から河川の水の状態を知ろうとするものです。

1 どのような川のどのような場所で調査したらよいか。

- (1) 水深が30cm前後で比較的流れがあり、川底にこぶし大から頭大の石が多い場所が適当です。川底が砂や泥で覆われている所しかみつからない場合は、ここでもかまいません。
- (2) 調査地点は川の流れて適切な距離をおいて決めますが、地点数、地点間の距離は、川の大きさや、調査の目的によって決めます。

2 調査の方法

(1) 調査のための道具

記録用紙、テキスト、下敷き、網、バケツ、ざる、バット、ルーペ、ピンセット、温度計、CODパックテスト（簡易水質測定キット）等を配布します。

※調査器具の数に限りがありますので、次年度以降に参加された際にはできる限り器具を再使用してください。

(2) 調査の仕方

- a. 記録用紙に地点名、月日、時刻、地点の状況などを記入します。
- b. 調査地点の下流部に受け網を置きながら底の石を静かに取り上げ、バットあるいはバケツにいれます。
あとの川底をかきまぜ、流れてくる虫を受け網で受けます。
- c. 岸に運んできた石などから生物を採取します。
- d. 採取した生物を記録用紙に記入します。生物の分類及び確認は、テキスト・下敷きの指標生物の図により行います。

水の汚れの程度（水質階級）と指標生物

水質など環境の状態を教えてくれる生物を指標生物といい、水の汚れの程度をⅠ（きれいな水）からⅣ（大変きたない水）までの4階級に分け、29指標生物の生息範囲により、汚れの程度を判定します。

水辺で安全に調査をするために

調査にあたっては、危険防止のため次の事項に十分注意しましょう。

また、津波の危険がある地域において、海浜に近い河口・下流で調査する場合は、津波に対しても十分に備えるようにしてください。

(1) 調査は数名のグループで

1人だけ、子供だけの調査は大変危険ですから、必ず大人の指導者を伴ったグループで調査しましょう。指導者は、安全な調査エリアを事前に確認して参加者に指示するとともに、誤って調査エリアを超えてしまうことのないよう、必要な監視を行えるだけの大人の人数を確保して下さい。

(2) 河川の流力は思った以上に速い

河川の流力は思った以上に速いことがあります、また、日によって状況が異なるため、以下の方法などにより事前に流れの状況を確認してから川に入ってください。①当日の天気予報や上流域のダムの放流警報などを調べる。②増水の可能性があるときは調査を中止する。③現場では目視確認を行い、まず指導者が川に入って状況を確認する。④特に初めての調査地点の場合には事前調査を十分に行う。

(3) 調査は、川底が見えるところで

水深は30cmまで（膝ぐらい）のところまでとし、これよりも深いところには入らないようにしましょう。

(4) ぬれてもよいクツをはく

川底に空きカンやガラスビンなどが落ちていて、川の中にはだしで入るのが危険な場所もあります。ぬれてもよいクツをはいて調査しましょう。子供用の長ぐつは中に水が入ると歩きにくくなり、ぬげてしまうこともあるので、浅い川以外では不適です。

(5) 川底の変化に気をつける

川底が急に深くなったり、やわらかい泥で足を取られたりする事があります。十分に気をつけて歩いてください。

(6) 足元と手元に注意

川底が、コケなどで大変すべりやすくなっている場所もあります。ころんだり、すべったりしてけがをしないように十分注意しましょう。また、川の中に入るときには、壊れやすいものや先のがったものは身につけないようにしましょう。ころんだ時に体をきずつけるおそれがあります。

(7) きたない川での注意

大変きたないと思われる場所で調査する場合には、ビニール手袋やゴム手袋などをはめて調査しましょう。

(8) 万が一に備えた準備と心構え

万が一ケガをしたときのため、ファーストエイドキットを携帯しましょう。指導者の方は、必要に応じて傷害保険に加入したり、近くの病院の場所や連絡方法について事前に確認するなどの備えをお願いします。